

Title	表紙ほか
Author(s)	
Citation	研究報告 (2002), 16
Issue Date	2002-12
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2433/134435">http://hdl.handle.net/2433/134435</a>
Right	
Type	Others
Textversion	publisher

# 研 究 報 告

## 第 16 号

東方ユダヤ人難民とプラハのユダヤ人 …………… 佐々木 茂 人 (1)  
——カフカの伝記研究のために——

「こいつは途方もない偽善者だ」 …………… 川 島 隆 (29)  
——カフカの中国・中国人像——

ユーゴスラヴィア内戦をめぐる西欧知識人の応酬 …… 國 重 裕 (77)  
——ペーター・ハントケ『冬の旅』に対する議論を中心に——

2002

京都大学大学院独文研究室

## 『研究報告』バックナンバー

### 第1号(1985)

- 大川 勇: ある深層の物語の読解 — ムー  
ジルの『特性のない男』研究のための序説 —  
金子 孝吉: リルケの詩『偶像』について  
田辺 玲子: 関係世界の創出 — アネッテ・  
フォン・ドロステ=ヒュルスホフの詩人像とそ  
の世界 —  
奥田 敏広: トーマス・マンの「モンタージュ技  
法」について — 小説形式のパロ  
ディ —

### 第2号(1986)

- 松村 朋彦: 心理学と小説のあいだ — カー  
ル・フィリップ・モーリッツ『アントン・ライ  
ザー』とその周辺 —  
大川 勇: 千年王国を越えて — ムージルの  
『特性のない男』における〈別の状態〉の行  
方 —  
加藤 丈雄: 『公子ホムブルク』につい  
て — 死の恐怖とその超越を中心に —  
奥田 敏広: リオン・フォイトヴァンガーの小説  
『成功』におけるヒトラ像について — 20  
年代の証言の一つとして —

### 第3号(1988)

- 加藤 丈雄: ハッピーエンドと悲劇 — 『公子ホ  
ムブルク』の多義性について —  
兵頭 俊樹: ヘルダーリンの‘Wie wenn am  
Feiertage...’に現れるディオニュソスの形  
象をめぐって  
竹本 まや: トーマス・マンの『すげええられた  
首』試論  
友田 和秀: 『魔の山』試論 — 主人公ハンス・  
カストルプの形姿をめぐって —

### 第4号(1990)

- 津田 保夫: 『ヴァレンシュタイン』試論 — ネメ  
シスの悲劇の観点から —

- 千田 春彦: フライダングの『ベシャイデンハイ  
ト』研究のために — 三つの《はざま》をて  
がかりとして —

- 宮田 眞治: 覚醒へ向けての夢想 — 『ハイン  
リッヒ・フォン・オフターディンゲン』試論  
(1) —

- 千田 まや: トーマス・マンの『ファウストゥス博  
士』 — デューラーの機能についての一考  
案 —

- 斎藤 昌人: 一カフカ像 — 『流刑地にて』を  
めぐって —

### 第5号(1991)

- 青地 伯水: ホーフマンスタールの『厄介な男』  
における「なおざりにされた生」と「達成され  
た社会性」

- 谷口 栄一: C. F. マイアーの『ユルク・イエナッ  
チュ』について — その多義性に関する一  
考察 —

- 津田 保夫: 後期シラーの悲劇論に関する一  
考察 — 悲劇的恐怖の概念を中心に —

- 斎藤 昌人: 閉ざされる世界

### 第6号(1993)

- 片桐 智明: ヨーゼフ・ロートの『ラデツキー行進  
曲』 — 「比較」と「繰り返し」のモチーフを  
めぐって —

- 千田 春彦: デア・シュトリッカーの『閉じ込めら  
れた女房』について — 物語の重層構造  
の目指すもの —

- 福田 覚: 自然模倣説における真理媒介の構  
造(1) — レッシング〈詩学〉に潜在する模  
倣説の輪郭 —

- 青地 伯水: W. ヒルデスハイマーの『リープ  
ローゼ・レゲンデン』におけるグロテスクなも  
のについての考察

### 第7号(1994)

飛鳥井 雅友: 「しばしばそれは絶望的な対話  
なのです」 —パウル・ツェラーンにおける  
対話の概念をめぐる—

吉田 孝夫: 時間の渦 —R・M・リルケ『新詩  
集』の数篇から—

片桐 智明: ヨーゼフ・ロートの『右と左』 —二  
つの方向—

### 第8号(1995)

濱中 春: シラーの『マリア・ストゥアルト』 —二  
人の女王のドラマ—

中村 直子: 分離動詞の認定をめぐる諸問題

飛鳥井 雅友: 神学の拒否と詩学 —パウル・  
ツェラーンにおける神義論の問題—

### 第9号(1996)

中村 直子: 正書法と分離動詞

濱中 春: シラーの『ヴィルヘルム・テル』におけ  
るスイスの風景

片桐 智明: ヨーゼフ・ロートの『百日天  
下』 —ヨーゼフ・ロートのワーテルロー—

飛鳥井 雅友: 「胸は張り裂け」 —ゴットフリー  
ト・ベンの場合—

### 第10号(1997)

濱中 春: シラーの『逍遙』における風景をめ  
ぐる— 風景の補償モデルとその矛  
盾—

吉田 孝夫: ローベルト・ヴァルザーにおける寓  
話性(1) —散文小品『通り(I)』につい  
て—

片桐 智明: 物語の行方 —ヨーゼフ・ロート  
の『果てしない逃走』と『カプツィン派教会納  
骨堂』をめぐる—

### 第11号(1998)

吉田 孝夫: ローベルト・ヴァルザーにおける寓  
話性(2) —放蕩息子をめぐる二つの散文  
小品について—

片岡 宜行: ドイツ語の与格の分類について

國重 裕: クリスタ・ヴォルフ『クリスタ・T への追  
想』について —その語りの構造—

飛鳥井 雅友: ゴットフリート・ベンにおける〈抒  
情的自我〉概念の登場をめぐる

### 第12号(1999)

片岡 宜行: ドイツ語の与格と空間補足語につ  
いて

吉田 孝夫: ローベルト・ヴァルザーの絵画描  
写について —エクブラシスの観点か  
ら—

片桐 智明: ハイミート・フォン・ドーデラー四十  
歳の小説 —『最後の冒険』、騎士とドラゴ  
ンの小説—

KUNISHIGE Yutaka (國重 裕): Zwischen  
Phantasiewelt und Wirklichkeit —  
Essay über Ilse Aichingers „Die  
größere Hoffnung“.

### 第13号(1999)

KUNIEDA Naotaka (國枝 尚隆): *Wilhelm  
Tell* als ästhetisches Projekt.

吉田 孝夫: ローベルト・ヴァルザーにおける通  
俗小説とメルヘンの再話について —対  
句法に関する試論—

### 第14号(2000)

廣川 智貴: 文体論の理論と実践 —クライス  
トの『ロカルノの女乞食』を例にして—

佐々木 茂人: カフカの作品における歌のモ  
ティーフ —『歌姫ヨゼフィーネ、あるいは  
ネズミ族』を中心に—

國重 裕: オーストリア小説に見る《家族ドラマ》  
の変遷 —M.シュトレールヴィッツ『誘惑』  
(1996)

第 15号(2001)

伊藤 白：『ブデンブローク家の人々』試  
論 —「市民と芸術家」の生み出す四つの  
類型から—

池田 晋也：アルトウール・シュニッツラーの『自  
由への道』 — 市民的なものと芸術的なも  
ののあいだを浮遊する生 —

川島 隆：カフカの息子 — 短篇「十一人の  
息子」読解 —

中原 香織：ヘルマン・ヘッセの『シッダール  
タ』について — 葛藤の不在がもたらす問  
題をめぐって —

羽坂 知恵：日常の「ヒーロー」 — ハインリヒ・  
ベルの『道化師の意見』について —

# INHALT

SASAKI Shigehito:

Ostjüdische Flüchtlinge und die Juden Prags

— Kafkas Einstellung zum Ostjuden während des ersten Weltkriegs ..... (1)

KAWASHIMA Takashi:

„Das ist ein grenzenloser Heuchler.“

— China- und Chinesenbild bei Franz Kafka ..... (29)

KUNISHIGE Yutaka:

Der Bürgerkrieg in Ex-Jugoslawien und westeuropäische Intellektuelle

— Die Debatte über „Eine winterliche Reise“ von Peter Handke ..... (77)

## 研究報告 第 16 号

非売品

2001 年 12 月発行

発行所 京都大学大学院独文研究室

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

京都大学文学部内

郵便振替 01060-2-38520

印刷所 北斗プリント社

〒606-0864 京都市左京区下鴨高木町

38-2